

人生の転機

Turning point



フォースバレー・コンシエルジュ社長
柴崎 洋平
Shibasaki Yohpei



大学卒業後、憧れの会社であるソニーに入社しました。ソニーには10年間在籍し、デジタルカメラを扱うデジタルイメージングカンパニーで、超小型デジタルカメラを大手携帯電話メーカーに販売していました。

商談に登場するのは世界トップ企業の優秀な人材。学生時代、アメフトに没頭して、ビジネススキルを磨いてこなかったわたしには、正直、歯が立たない相手でした。

しかし、それでも商品は売れました。なぜなら、優秀なエンジニアが作った超小型カメラだったからです。つまり、自分の力ではなく、ソニーのエンジ

ニアリング力で商品が売れているということですよ。

たとえ数億円の商談をまとめても「自分の力ではない」。そう思ったとき「ソニーにいたら、文系人間として一生この思いを感じながら仕事をしていくのだろう」と愕然としました。仕事を通して世界中の優秀な人材に出会い、自分の非力や能力の低さを痛感したのです。

また、大型の案件を受注しても、学生時代のアメフトチームのように、ハイタッチをしたり、抱き合つて喜んだりしないことにも物足りなさを感じていました。

商談の規模が大きくなるにつれ、自分たちの手で作った会社で、自分たちの力で結果を残したい。その思いが強くなってきました。ソニーイズムを真に体現するのも起業であり、ソニーのような世界ブランドを仲間とゼロからつくりたい。そう思い、起業を決意しました。

そして、2007年に会社を設立し、現在、日本企業に世界

中の優秀な学生を紹介する事業を展開しています。この事業は、ソニー時代に抱えた「なぜ、日本の企業は国内だけで人材を採用するのか」という疑問から生まれました。

当社では、数十カ国の採用時期や採用基準等を調べてデータベース化し、欲しい人材をすぐに採用できる仕組みを構築しました。今後は、「世界から日本」だけでなく、「日本から世界」、「世界から世界」へとネットワークを拡大し、世界に誇れる人材のデータベースを構築して

いきます。

日本は終身雇用で、努力しない人でも仕事を続けていける環境があります。しかし、世界にこうした制度はなく、常に競争に晒されています。この違いが、日本と諸外国の活力の違いになっているように感じます。

起業をしたのも、日本を取り巻く閉塞感を打破したいの思からです。世界の活力を取り込み、フォースバレー・コンシエルジュを、ソニーのような世界ブランドの企業にしていきたいと思っています。

ソニーを退社して起業



ソニー退社後、世界各国にいる知人を訪ねて世界を1周した柴崎さん。写真は、米国フロリダ州のキーウエストにいる伊藤忠商事の知人を訪ねた時の1枚